

三陸沿岸の津波石碑  
—その1. 釜石地区—

卯花政孝\*

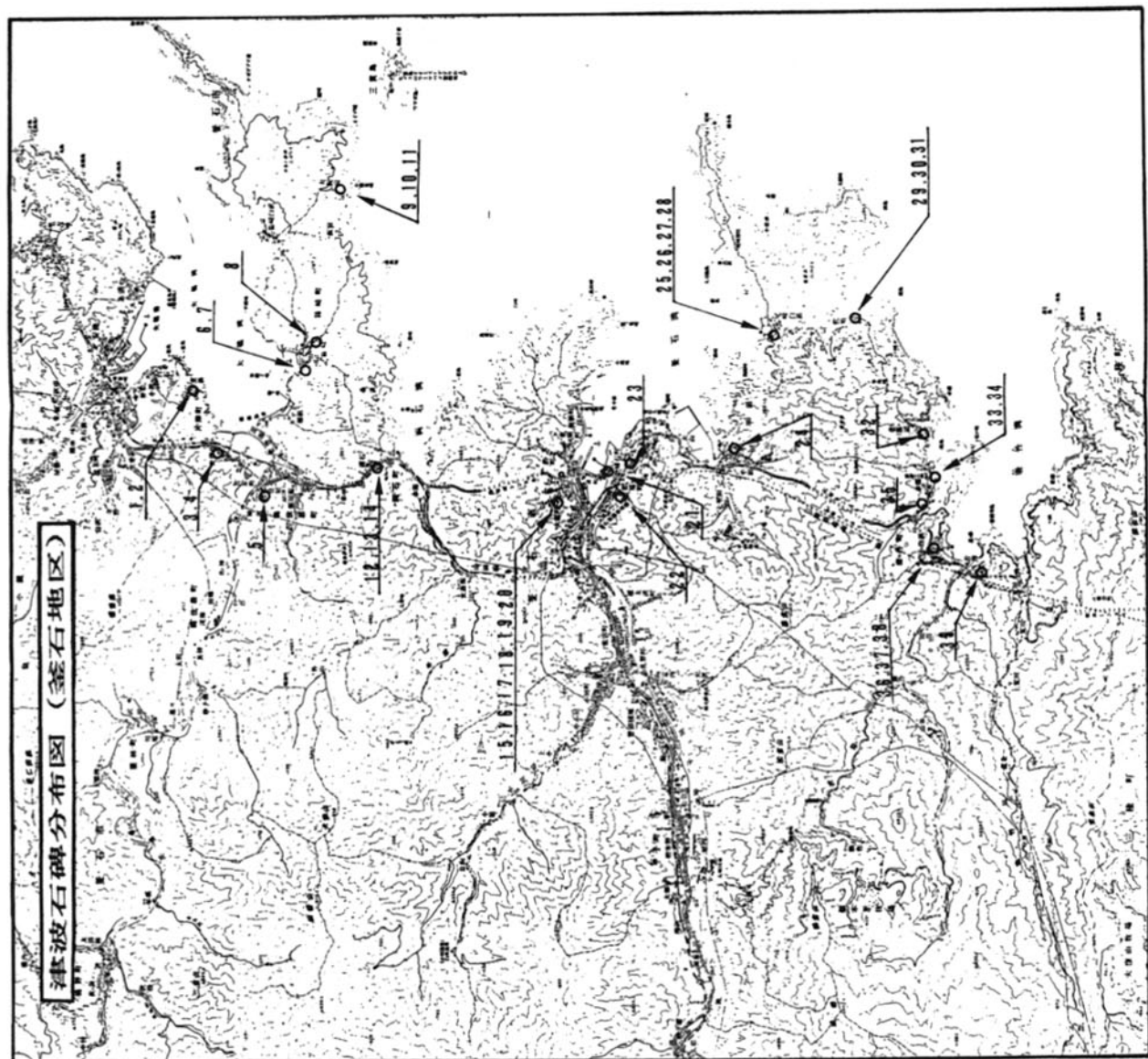
凡例

1. 石碑の調査対象は、津波に関するものとした。
2. 対象地域の全体の分布図、碑の所在地の詳細図を付した。
3. 石碑の寸法には台座は含まない。
4. 碑文の不明文字・難読文字については、該当文字を■で表示した。
5. 掲載の石碑のカラー写真、御希望の方御連絡下さい。

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉  
東北大学工学部土木工学科河川研究室  
TEL 022-222-1800 内4582

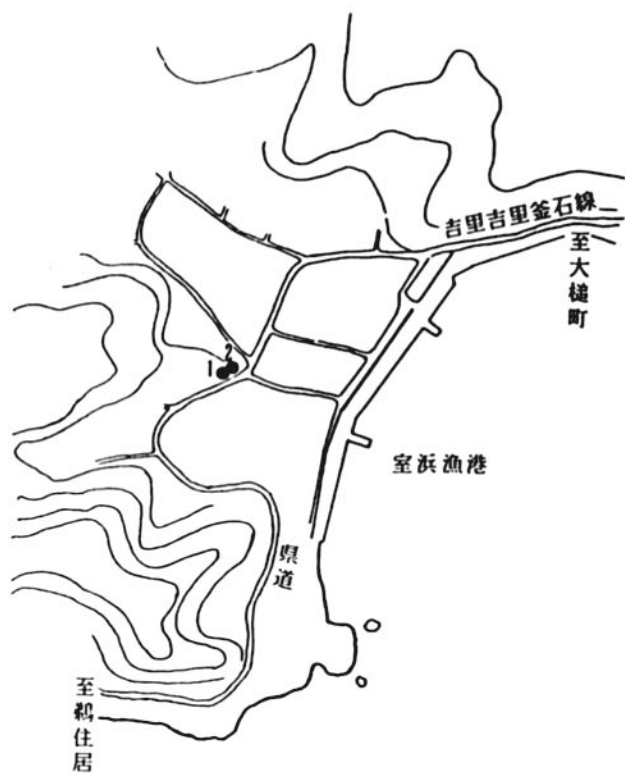
---

\*東北大学 工学部土木工学科



釜石市片岸町室浜 県道脇

カメラ 1, 2





高 192 cm  
 横 101 cm  
 厚 41 cm

カマー 1

昭和八年三月三日  
 津 泊浪 訃記 念心 碑  
 大地震の後は津浪が来る 美彦

地震ノ時 午前二時三十分  
 津浪襲来 午前三時

本碑ハ東京朝日新聞社  
 讀者ヨリ寄托サレタル  
 義捐金同社カ各町村ニ  
 分配シタル殘金ヲ持テ  
 建立シタルモノ也

昭和十年三月三日建設  
 鶴住居村長 古川徳次郎



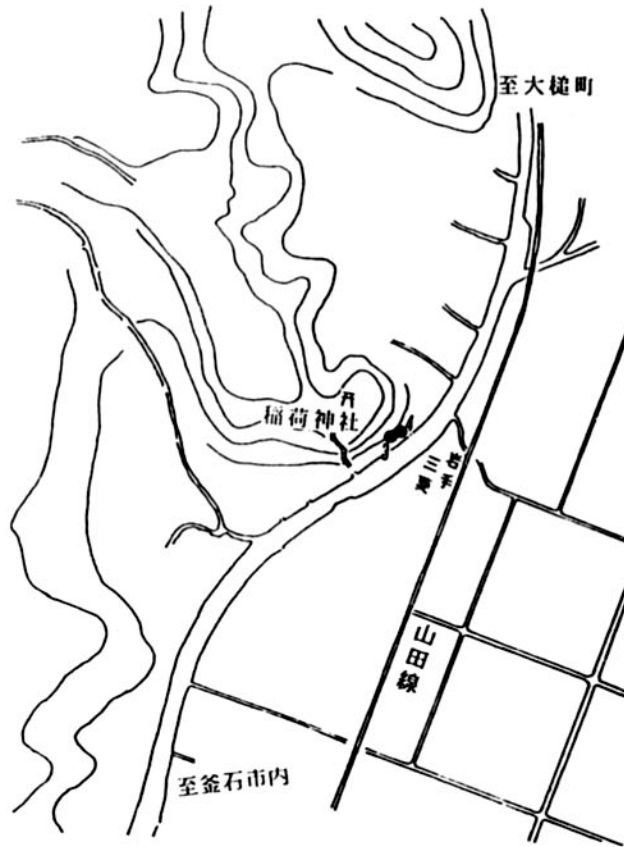
高 153 cm  
 横 57 cm  
 厚 26 cm

カマー 2

海 明治廿九年  
 津 訃記 念心 碑  
 田五月五日

釜石市片岸町片岸 稲荷神社

カメラ 3, 4





高 176 cm  
横 110 cm  
厚 54 cm

カマー 3

昭和八年三月三日  
津浪 記念 石碑  
大地震の後は津浪が来る 美彦

地震ノ時 午前二時三十分  
津浪襲来 午前三時

本碑 東京朝日新聞社讀者  
ヨリ寄托サレタル義捐金同社力  
各町村二分配シタル殘金ヲ以  
建立シタルモノ也

昭和十年三月三日建設  
鶴住居村長 古川徳次郎



高 121 cm  
横 55 cm  
厚 36 cm

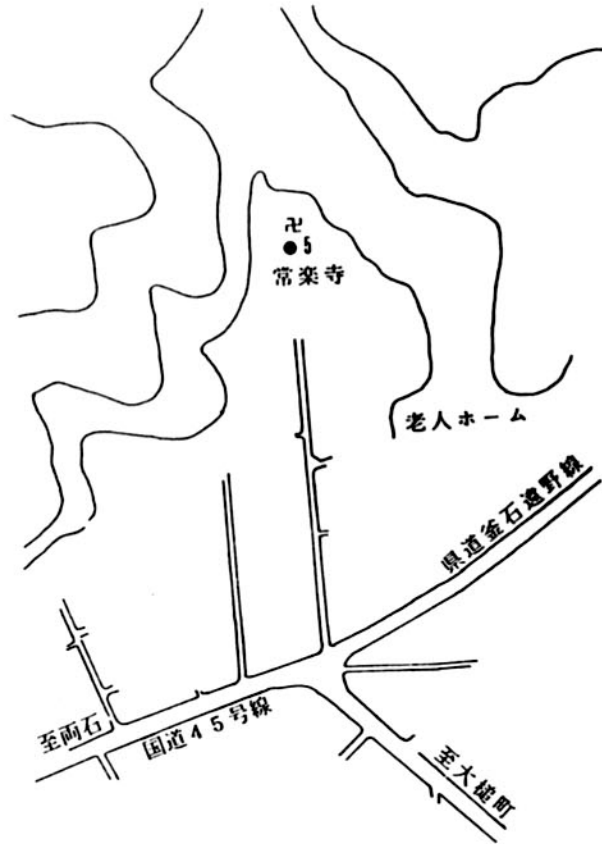
カマー 4

天長地久 國土安穩  
南無妙法蓮華經 八大龍王鎮座  
海上安全 村内繁榮

維持明治二十九年大海嘯之年 建之主  
木川榮吉

釜石市鶴住居町新田 常楽寺

カマ-5





高 123cm  
横 48cm  
厚 26cm

明治廿九年六月十五日初夜怪雨雲霧晦冥掩海俄然怒浪滔天股體怡萬雷爲其慘  
 日中書■於三陸之地南北數百里而使幾萬之生靈擊斃鯨鯢痛哭哉矣賴住居村沿岸  
 亦罹害極甚頃刻漂蕩頭顱途屍累累以千數慘中慘何事如之就中氏姓不明無緣之  
 怨示漂沒者爲兩石男女二人大阪宿女一人三寶島男十二人室濱女一人也爲於斯村長真  
 壁喜六氏際十有三周之忌辰資■恩賜之金贊義金若干建設碑石於常來寺境域以  
 幽附欲慰幽魂爲其企圖也詢干余余固痛悼不能禁乃叙而爲吊祭之辭矣

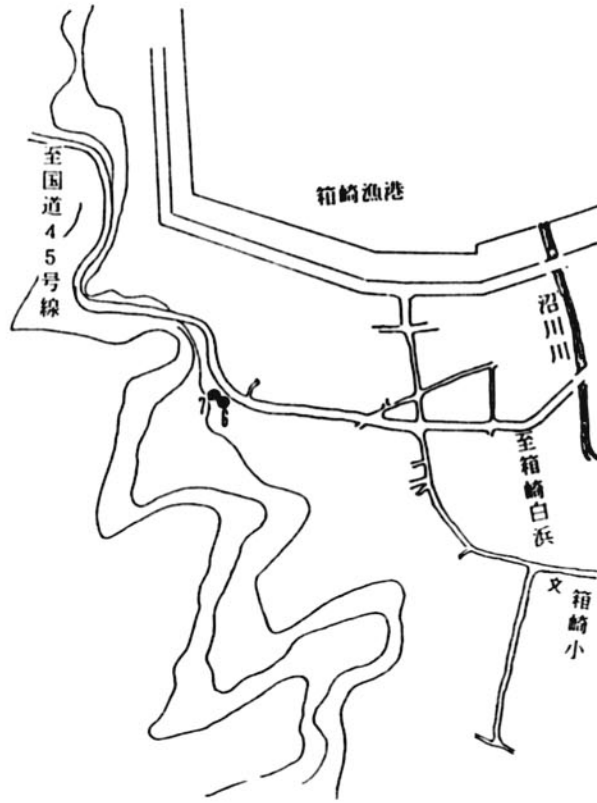
明治四十一年六月十五日

現常來十五世大哲廣順 誌



釜石市箱崎町箱崎 県道脇

カメラ 6, 7



高 256cm  
横 130cm  
厚 45cm



岩手縣知事  
丸茂藤平題并書

從四位勳四等

中心故上閉伊郡箱崎小学校教員栃内泰吉氏ハ盛岡ノ人ナリ性朴實ニシテ漢籍ニ通シ村民ノ信望厚シ偶々明治二十九年六月十五日大海嘯起ルヤ老母ヲ家族ニ施シ奮然身ヲ挺シテ聖影ノ烈奉遷ニ赴キ不幸ニシテ波濤ニ流サル翌日前川徳藏氏君ヲ汀辺ニ察ム全身傷ヲ負ヒ半堅泥ニ埋レ氣息奄々トシテ尚聖影ヲ奉持ス乃チ小川忠四郎氏宅ニ移シ療ヲ加フルモ遂ニ起タリ永齡五十五聞ク者痛惜セナルナシ誠忠眞ニ世ノ勳シ以テ偉烈ヲ後昆ニ傳フ

芝方

昭和三年六月十五日

岩手縣教育會上閉伊郡部會長工藤祐吉撰

大海嘯

芝方

雷靈

△日

祀

殉難者

箱崎 十四名

桑ノ浜 五十三名

白濱 十七名

假宿 九名

大假宿三漁場八十名

世話人  
箱崎講中會一同

カマー 7

高 180cm  
横 120cm  
厚 40cm



昭和八年三月三日  
津浪 記念 石碑  
大地震の後には津浪が来る 美彦

地震ノ時 午前二時三十分  
津浪襲来 午前三時

本碑ハ東京朝日新聞社讀者  
ヨリ寄托サレタル義捐金同社力  
各町村二分配シタル殘金ヲ以テ  
建立シタルモノ也

昭和十年三月三日建設  
鶴住居村長 古川徳次郎

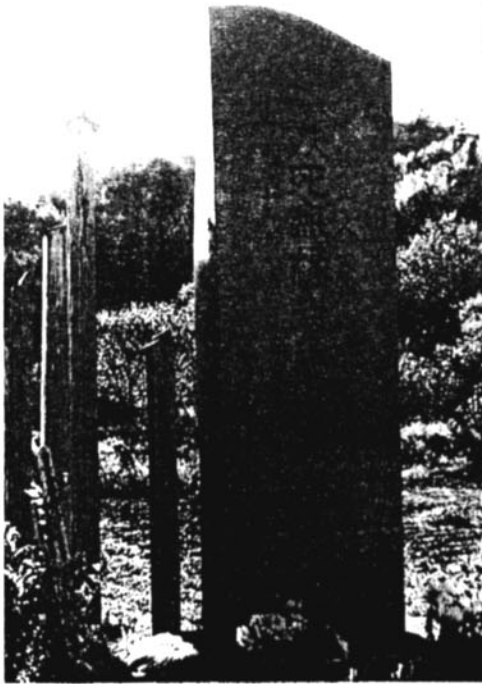
釜石市箱崎町箱崎上前  
小林徳平氏宅

カメラ 8



カマー 8

高 221 cm  
横 65 cm  
厚 34 cm



津波  
海難

若生人天中 受勝妙楽  
殃死無縁者迫善供養塔  
若在佛前 蓮華化生

昭和五十一年六月廿七日

小林利七郎

発起人

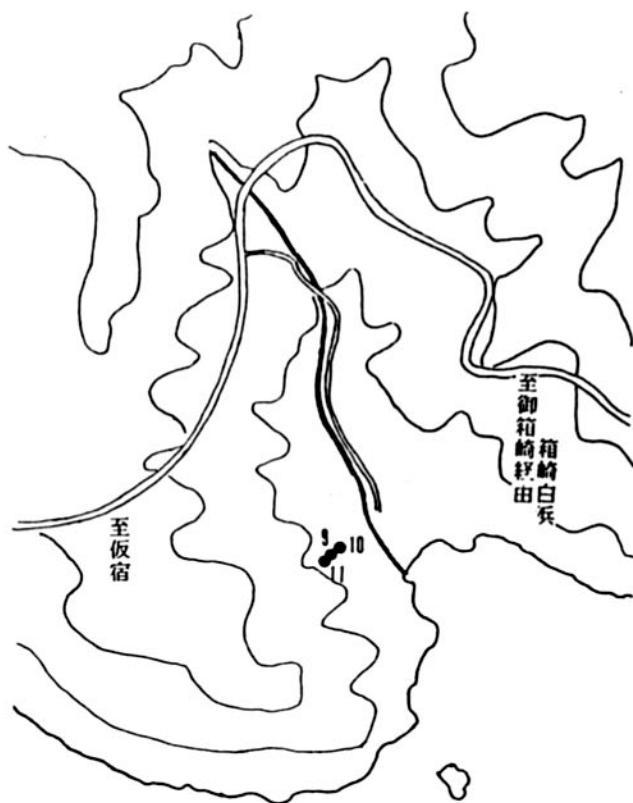
建立

田中太三郎石材店

りん

笠石市箱崎町大飯宿  
海岸近傍右岸山腹

カマ-9, 10, 11





高 172 cm  
横 96 cm  
厚 38 cm

明治三十年旧五月五日設立之

小林 徳次郎  
前川 与平治  
浦嶋 竹藏  
岩間 竹藏  
金野 次郎  
植田 喜平  
佐々木 春松

カマー 9

明治廿九年六月十五日海嘯横死

潮主 金野喜兵衛  
番頭 里館太郎  
同 三浦春吉  
大謀 三浦喜助  
同 佐々木潤藏  
同 橋本富八  
親方 山崎寅三郎  
同 小林知之吉

外八十四名精霊



高 88 cm  
横 64 cm  
厚 30 cm

海嘯溺死 小林勝藏精霊

明治廿九年六月十五日

カマー 10



高 88cm  
横 50cm  
厚 21cm

カマー 1 1

明治廿九年  
六月十五日

海嘯横死無縁塔

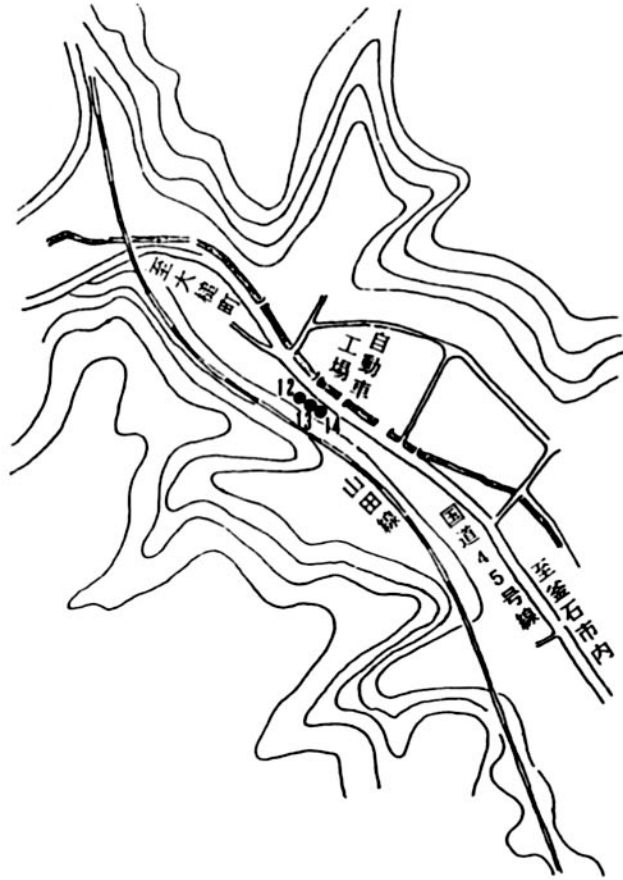
夏鮎建網

行人 小林武次郎  
外 六名



釜石市両石町両石 国道脇

カメラ12, 13, 14





高 167cm  
横 75cm  
厚 14cm

カマ - 12

玉爾丁石海嘯時州紀念碑  
此碑可滅矣此恨不可滅也縱令雨洗苔蝕碑字摩滅  
子孫傳之口碑長語明治二十九年六月十五日海嘯  
之災當時災水之所波及涉于三陸沿海百里之地以  
兩石一都猶喪七百九十人其全生於狂瀾之中者僅  
二百四人而已何其慘也強弩射潮而難殺海若之威  
精衝填海不能滅冤鬼之恨今也生者之淚凝成貞珉  
刻文設祭以修其福石雖小而其功德也大然則此恨  
可滅矣此碑不可滅也銘曰  
一 踏蹠翻 這邊那邊 碧波萬頃 好箇墓田  
離生死岸 棹無底船 魂兮其曠 月朗海天  
明治三十五年七月 北海居士廣田忠藏撰并書



高 190cm  
横 91cm  
厚 42cm

カマ - 13

海嘯 紀念碑  
從三位伯爵南部利恭出書  
明治二十九年六月十五日



高 190 cm  
 横 104 cm  
 厚 57 cm

カマー 1.4

昭和八年三月三日  
 津浪 治 氏 訂 記 念 碑  
 大地震の後には津浪が来る 美彦

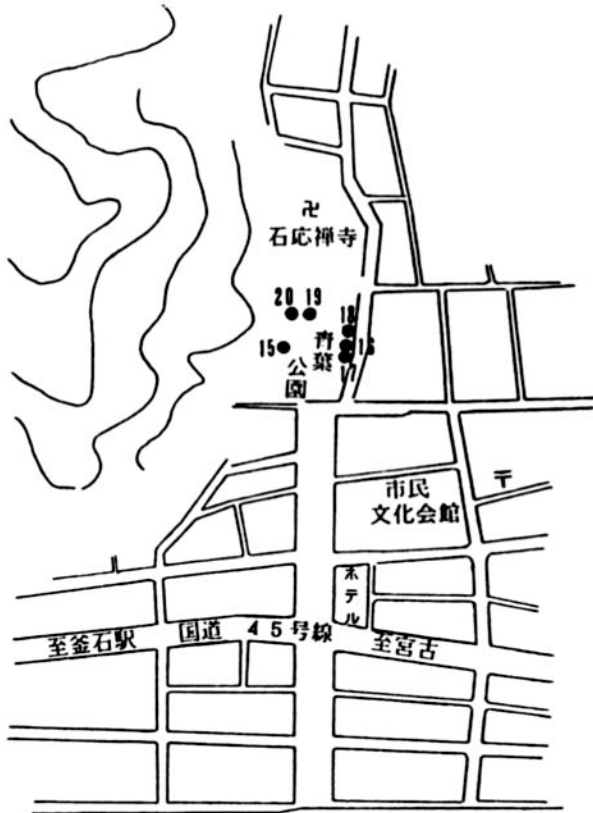
地震ノ時 午前二時三十分  
 津浪襲来 午前三時

本碑ハ東京朝日新聞社  
 讀者ヨリ寄托サレタル  
 義捐金同社カ各町村ニ  
 分配シタル残金ヲ持テ  
 建立シタルモノ也

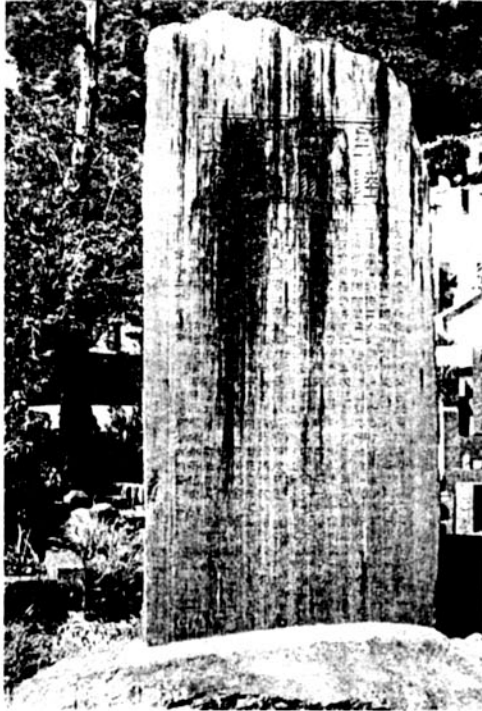
昭和十年三月三日建設  
 鶴住居村長 古川徳次郎

釜石市大只越町一丁目 石應禪寺

カマ-15, 16, 17,  
18, 19, 20



高 260cm  
横 125cm  
厚 20cm



變之大莫過於死焉死之慘莫甚於罹水火刀杖震雷之災焉況甚屍  
 三陸 累累以萬數可謂慘中之慘至此極矣三陸之地東方皆海一望渺然  
 大海 無知涯際明治二十九年六月十六日初夜霜雲掩海俄然怒浪滔天  
 百里青森岩手宮城三縣之地尤震其毒千戶萬家一時漂蕩父子兄  
 弟離溺弟無滄相濟夫婦朋友或同葬魚腹或頭幽異途死者無弔祭生者無  
 屋宅衣食老幼病弱悲泣痛哭却恨其免死得一生傷心慘目何事  
 死 如之若手縣釜釜石町亦罹害極甚町有田中製鏡所職員工夫及其家  
 眷等為之溺死者一百三名同僚存者痛悼之情不能禁與東京田中  
 弔祭所本店及大阪田中支店諸員胥謀欲建碑石於石隱寺境域以為招魂  
 之碑也乃打上僞以尊薦一百三名併同向諸溺死者云偶曰  
 溺沒三萬 乾坤沈淪 天子宸痛 下貽賜金 老幼得活  
 億兆懷仁 唯其死者 嗷奈戮神 法之權度 庶幾歸真  
 頑石說法 剝剝塵塵 無遮大會 無主無資 正偏宛轉  
 同乘輪 勅特賜性海慈愍揮師永平悟由撰  
 明治三十年三月 藕藕居士大内青樹書

死 亡 役員及家族 職工及家族  
 小林充太郎 小笠原方六  
 外 式拾宅名 外 式百九拾名

建 東京田中本店員一同  
 設 釜石田中製鏡所員一同  
 者 大阪田中出張店員一同  
 山 話 人 陸前石卷 丸山清平  
 石材出品人 陸前福井 阿部勇之丞

高 236 cm  
 横 135 cm  
 厚 25 cm



明治二十九年歲在丙申六月十五日午後八點突如轟然響如巨雷  
 迅雷劈耳駭神尋海嘯大驟巨濤激浪澎湃洶湧拔樹倒巖家屋漂  
 蕩人畜浮沈喚叫悲鳴慘絕須臾間然滅泯海陸一空慘極烈  
 甚不可名狀焉此日偶陰曆端午朝來微雨霏霏不舞翻雲湧湧  
 陸聞々其震地微震數次人不肯駭家々置酒團樂歡語於是乎親子之  
 愛夫妻之情兄弟之友朋友之信莫由賴保極濟空肥魚鰓之腹或  
 出萬死而續得一生者挫手摧足倏為孱寡孤獨居無家室衣無棉  
 訂祀抱食無米蔬病苦呻吟暴雷雨露哭天慟地却恨不同其死可謂悲  
 慘之極焉矣罹災戶數八百四十一戶溺死者二千九百七十九口  
 收入役金崎祐藏町會議員小輕米汪磯田勘助佐野政次郎新沼  
 公心嘉藤治岡會議員山崎清助佐野源次郎區長山崎善八川畑永松  
 大坂忠兵衛全代理者藤元金藏猪又安藏山崎梅太等十二氏亦  
 歿蓋三陸海嘯者振古未有之慘青釜石町為其最町議欲勒而  
 幽貯存之町長岩間善十郎謂余文余有緣於釜石町道不可辭銘曰

海伯怒號 極目愴情 沒斯家屋 穿斯生黎  
 於臺上帝 厥德洽兮 生者愉卸 逝者不歸

秦 實信撰並書

明治三十五年六月 方海嘯被害七周年 釜石町建之



高 97 cm  
横 42 cm  
厚 27 cm

カメラ 17

海嘯 災  
明治廿九年六月十五日

死 追 悼



高 160 cm  
横 77 cm  
厚 24 cm

カメラ 18

海嘯 萬人

山形縣之産回國會佛行者

宿元 大和田實之助  
石工 大久保民之助  
供養 椀 塔  
高演 隆 俊  
妻 美 幾  
長女 も ん



鑄造海嘯慘死者追吊紀念銅像之記

明治二十九年六月十五日海大嘯怒瀆三陸沿岸其被害之所及南北數十里死傷無算蓋本邦未曾有之大慘事也

然而陸中國釜石町被害最激甚曹洞宗石隱寺

檀信徒其他同町住民而溺死者實貳千九百六

拾三人也其中一家悉斃而無親族姻戚之援

瘞其屍亦甚多矣乃新設二大合葬地

一字唯越風石隱寺境外合葬之者七

百余人一字仲町同寺齊境外合葬之者

貳百廿余人今茲值其第七回忌

之辰追憶當時之慘狀則悲哀

之情轉不能禁也於是

永沢亀吉金沢八弥

和泉安五郎岩

館記平菊

地市蔵

没田弘二

金沢トヨ

岩館マン川畑マツホ大巻チエ岩間フジノ岩館キミ近江タケ

長沢フクエ野崎ヤエ石隠寺代僧沼田雲門等胥謀廣募於

同志之醜金乃使東都鑄物師西村和泉鑄造青銅延命

地藏大菩薩尊像二基爲分安之於二大合葬地以而追吊

慘死者之遺靈并爲其紀念焉工事將成也主任石隠寺住持菊地智賢師囑余記其事以謀不朽焉

維時 明治三十五年七月七日

發願助緣者

和敬講連中

字松原 菊地チウ

字大橋 菊地マツエ







この部分

補修のため

欠如で読めず

余人一字仲

陸中國釜石町被

十里

住民而溺死者

族姻戚

葬地區

町同寺境外地也合葬之者二百廿余也

令茲慎其第七回忌痕追憶當時之慘狀

朋悲哀之情軫不能禁也於是永沢亀吉

金沢八弥和泉安五郎岩館記平菊池市蔵

浅田弘二等皆謀廣暮同志之贈金焉

使東都西村和泉鑄造青銅延命地藏

菩薩尊藏二基而■之始二台

葬地以而吊慘死者遺露井

為其紀念焉工事將成也

主任者石応寺住職

菊池智賢師囑

余記其事

以謀 不朽焉

維時明治三十五年七月七日

勅特賜性海茲松禪師侍者佛燈謹記

発願助縁者和敬講中金沢トヨ岩館マン川畑マツヨ

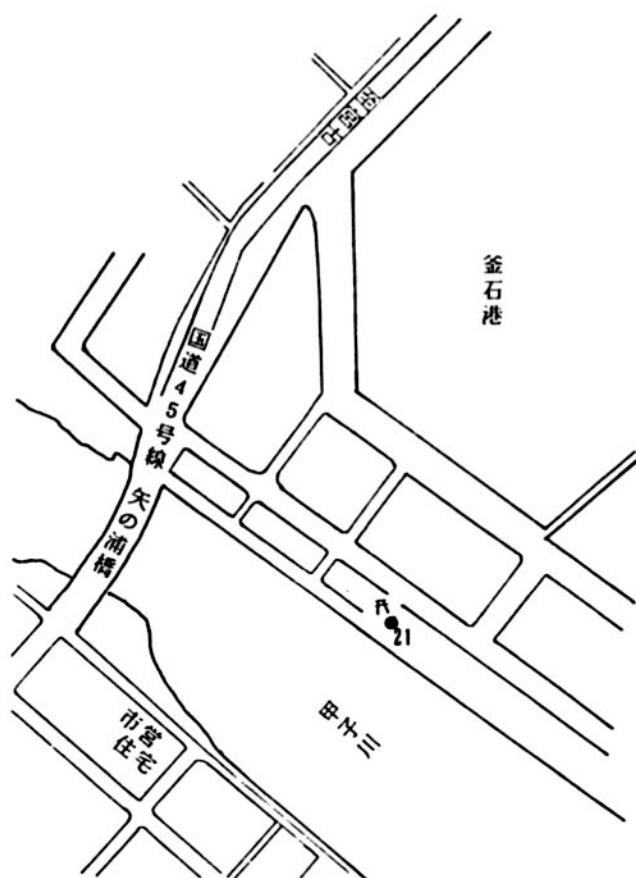
岩間フジ岩館キミ近江タケ大卷ツエ長沢フクエ野崎ヤイ

吉潮音庵主■光居



釜石市港町一丁目 須賀神社

カマー 2 1





高 100 cm  
横 68 cm  
厚 24 cm

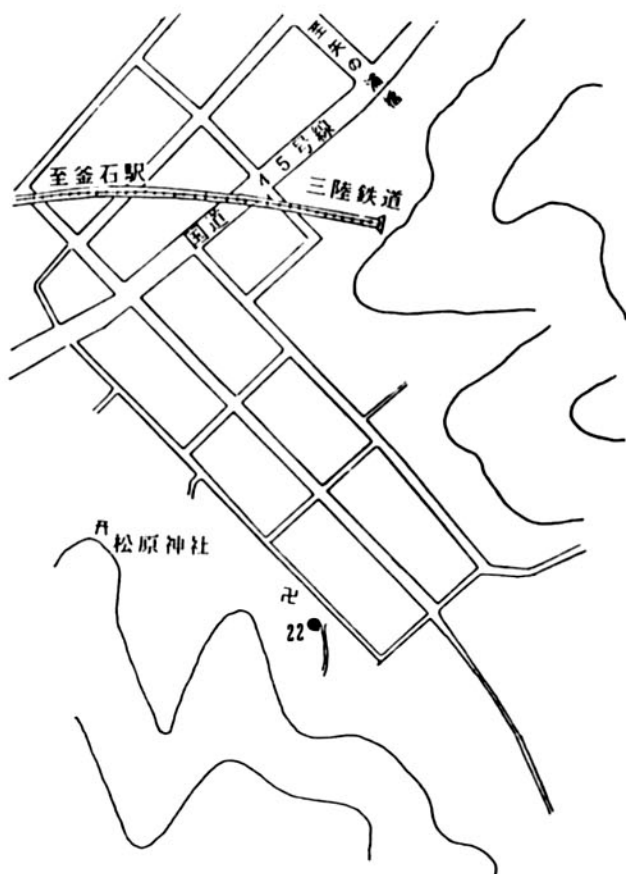
### カマー 2 1

玖魂ノ神籬床シキ須賀ノ御前祠ハ其ノ創祀由緒共ニ詳ナラ  
スト雖モ龍宮殿ノ口碑ニ徴スルモ尾崎神社攝社綿津見神社  
因縁深キヲ知ルニ足ラム社地白沙青松ノ間ニ在リ暗風搖曳  
勝景ノ地ナリシカ三陸大海嘯ノ難ニ遭ヒ悉ク流亡シテ松籬  
彈琴ノ調ヲ絶ノモノ二十有餘年今夏齋藤千松氏四宮榮治氏  
附近ノ泓地旱魃ノ際一大異石ノ土中ニ横ハルモノアルヲ發  
見シ之ヲ發掘セシニ龍宮殿ノ嘉字アリ建立ノ年次古老ノ口  
碑ニ徴シ御前祠ノ境内ニ在リシモノナルヲ確知セリ乃チ發  
起者諸氏ノ援助ヲ得テ之ヲ舊地ニ建設シ神域ヲ修築シ鳥居  
及御旗ヲ奉納シ以テ祭祀復古ノ記念ト爲ス

大正十五丙寅年中秋吉祥日

釜石市松原一丁目 共同墓地

カマ-22





釜石市婦石町一丁目 旧国道下

カマ-23







高 164 cm  
横 98 cm  
厚 20 cm

カマ-23

明治二十九年六月十五日  
海 嘯 横 汎 儀 姓 相 重 並  
追 弔 主 宮 婦 石 衆 中

爲

當燻石水害災死者

男六十一人女九十四人

追悼

維時明治卅一年旧五月

五日第三年己心正當之日

造立焉

石應拾五世和智賢書之

寄附金

金五兩 岩間伊之松 金貳兩 藤原 六兵衛

金四兩 平野 七金 岩間 又 梅兵衛 川畑 留 吉

金三兩 藤井 留 吉 金壹兩 平野 吉 三良 金壹兩 岩間 吉

金貳兩 川畑 伊 八金 岩間 川畑 留 吉 金壹兩 岩間 吉

金貳兩 川畑 大 亮 金壹兩 平野 元 助 金五拾錢 平野 吉

金壹兩 藤原 龜 太郎 金壹兩 平野 元 助 金五拾錢 平野 吉

金壹兩 平野 重 基金 岩間 佐 藤 忠太郎 金壹兩 藤原 龜 太郎

金壹兩 平野 重 基金 岩間 佐 藤 忠太郎 金壹兩 藤原 龜 太郎

金壹兩 川畑 カジ 金壹兩 平野 兼 吉 金壹兩 川畑 カジ

金壹兩 川畑 カジ 金壹兩 平野 兼 吉 金壹兩 川畑 カジ

金壹兩 川畑 カジ 金壹兩 平野 兼 吉 金壹兩 川畑 カジ

金五兩 燻石 年佛 讀中

井筒エン 川畑マツヨ 平野フク 川畑マン 川畑ヨシの

金五拾錢 猪又菊 益

平野留 小頭 川畑久之助

金五兩 野田竹 益

川畑基助

金五兩 村井良一 益

平野重之助

藤原留之助 平野 益

岩間與惣吉

藤田常松 細川ミの丞

藤田金蔵

山崎留藏 川畑 益

川畑基之丞

川畑存吉 平野 益

世話人

藤原千之助 平野 益

山崎伊勢松

若間松石工門 平野 益

藤原傳次郎

川畑 益

木下留助

石工

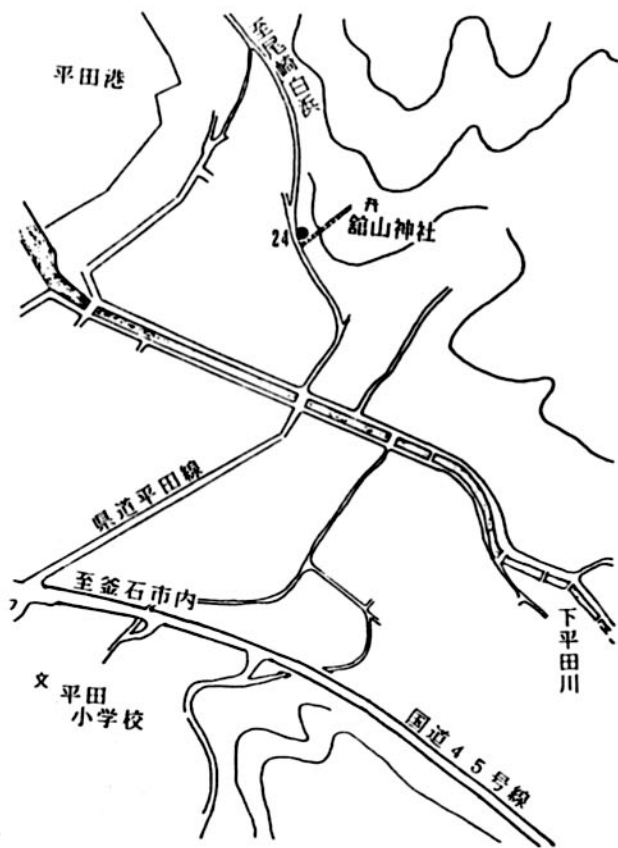
大坂平野藤五郎

釜石菊地西造

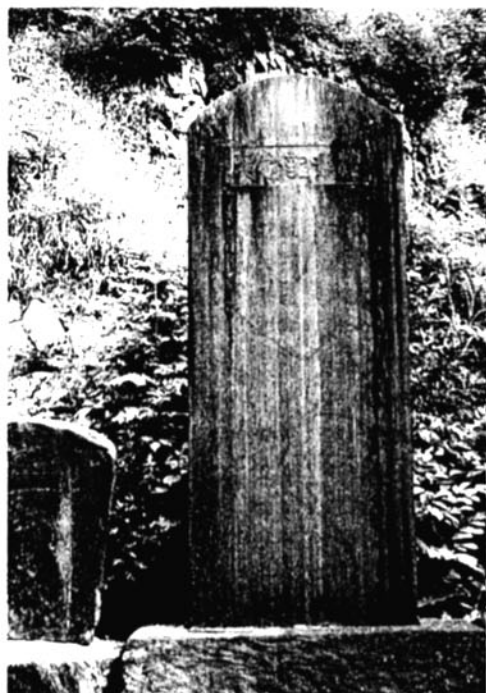
平田久保市次郎

釜石市平田町下平田  
県道館山神社前

カメラ 24



高 286cm  
横 113cm  
厚 18cm



百歳ノ他生ハ依ル因果 日々ノ行持是レ正道 成・住・壞・空 四劫ノ説  
真・善・美・信 四條ノ徳 人生依テカ何増サン幸福 富シ體ス科學ト與 正信ト

顧みるに三陸大海嘯の大悲惨事は明治廿九丙申年旧端午の宵と昭和八癸酉年新羅祭節句の未明との恐る可き二大突発事件であった。先住智賢和尚撰書の丙申海嘯溺没者碑に依れば、下平田は全戸数五十三軒中流潰四十一、人口四百人中溺死者男卅五女四十五馬二三牛五頭流潰船十八艘製塩所二棟潮波高サ四丈南ハ仁田代口西ハ與平ヶ鼻北ハ狼ヶ洞ニ達シ松ヶ鼻ノ恵比壽岩一丈ノ物怒涛ニ劈倒セラル海嘯ノ猛烈ナルヲ推知セヨ釜石全湾ノ被害ハ筆舌ニ尽シ難シ慘日何事カ之ニ如カンヤ之ヲ以テ遺族相謀リ碑ヲ建テ以テ災死者精霊ノ善提督マント欲ス、(明治卅五年三月十五日建立之)、と述べてあるが遺憾乍ら自然石は風化破壊して修理手におえず有志相計りて之を再建せんと欲し余に撰文を乞ふ。併せて癸酉海嘯の記事を追加し海嘯記念碑今心と題し追弔及び警句の意を兼ねる事とす。癸酉海嘯は下閉伊郡田老と氣仙郡本郷とは被害最大であったが釜石は人畜の被害軽く死者四十人其中平田一人丈け固より家財の被害は甚大だった。が下平田は倒壊流失家屋十七戸不幸中の幸と申すべし委細は海嘯史に譲る凡そ人類には健忘的確性がある後昆此の碑を見聞する者深く警誡して忘却せざるよう余の切に願ふ所である。

昭和三十三年十一月

石應寺十六世

雲山午郎識之

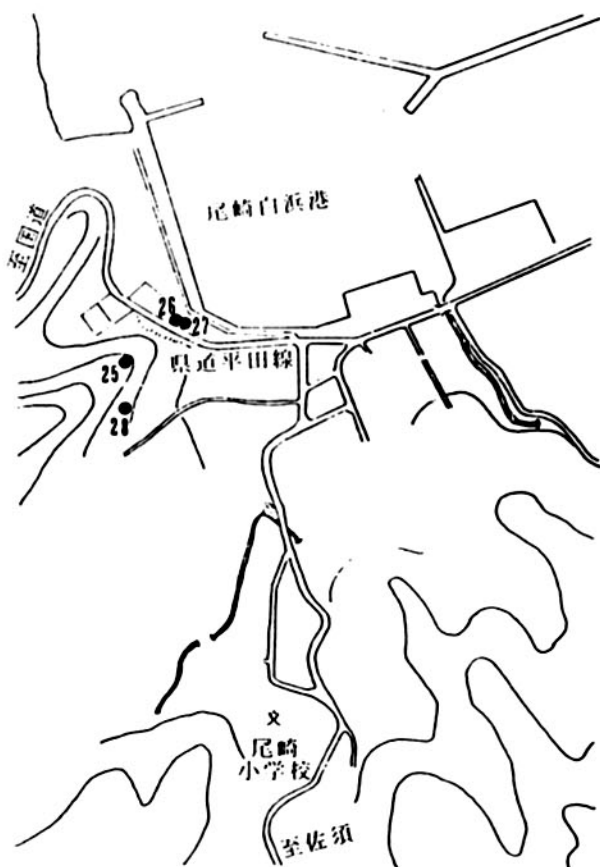
宮城県牡鹿郡稲井 阿部 因

- |    |              |          |         |      |        |
|----|--------------|----------|---------|------|--------|
| 一金 | 拾万四也         | 平田漁業協同組合 | 一金      | 五百四也 | 佐藤 角之助 |
| 一金 | 五万四也 (■立木六本) | 前川 永松    | 久保 誠    |      |        |
| 全  | 全            | 前川 與八    | 佐々木 万之助 |      |        |
| 全  | 全            | 石田 善六    | 浅田 榮助   |      |        |
| 全  | 全            | 杉下 徳太郎   | 高宮 誠    |      |        |
| 全  | 全            | 下平田 区民一同 | 松 善之助   |      |        |
| 一金 | 参万五千四也       | 前川 駒山    | 久保 宮次郎  |      |        |
| 一金 | 式千四也         | 久保田 一記   | 川向 市太郎  |      |        |
| 全  | 全            | 佐藤 万十郎   | 佐々木 信吉  |      |        |
| 全  | 全            | 佐々木 要一   | 高沢 朝次郎  |      |        |
| 全  | 全            | 前川 留七    | 佐々木 伊勢吉 |      |        |
| 全  | 全            | 岩鼻 賢太郎   | 佐々木 菊太郎 |      |        |
| 全  | 全            | 前川 宮四郎   | 岩鼻 賢太郎  |      |        |

現在地移転年月日  
昭和四十七年四月二十五日

釜石市平田町尾崎白浜 共同墓地  
県道脇 共同墓地南下

カマ-25, 26, 27, 28





高 195 cm  
横 75 cm  
厚 41 cm

カマ - 25

緒言

海嘯の変化ハ明治廿九年六月十五日午後八時二十分頃尔して横没する者三百三十九人其中十六年以上の男六十三人同十六

歳以上の女百〇七人十五歳以下の男児三十三人同女児四十二人流漬家屋七十宅戸奈り此嘯害尔罹らさ流者庵室と外老戸

海 嘯 横 汎 没 老 百 世 以 養 塔

あ流のミ尔尔災死者追悼記念のため免水戸金作外卅八人の施主相共尔謀りて

此碑石を建立し永久を

維時明治三十年旧七月十五日 石應寺十五代 大拙書

建設施主人姓名真面尔報刻之

富白濱若衆 和親講中造建

水戸 佐々木 中村 前川 佐々木 中村 佐々木 水戸 水戸 松五郎 金作  
 久保 前川 水戸 佐々木 久保 川畑 久保 前川 竹安 松良 前川 水戸 水戸  
 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木  
 作次良 善之助 富承 吉兵衛 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助  
 吉兵衛 助  
 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木  
 中川 川畑 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村 中村  
 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金 義金  
 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保 久保  
 山形縣 大坂市 田子村 石工 石工 石工 石工 石工 石工 石工 石工 石工 石工 石工  
 千代吉 金沢 川畑 野藤 仁太郎 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助 助  
 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木  
 小袖 兵之助 松 助  
 金同五円 佐々木 鉄藏 同四円 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉 川畑 善吉  
 者同三円 久保 千代



三陸大津波犠牲先祖供養塔  
 往昔から尾崎白浜の地は、毎々大津波の  
 災害を蒙っているが、特に明治二十九年六月  
 十五日の如きは一瞬の間に全部落が大津波  
 に呑まれ、家屋はわずか一戸を残すのみ、実  
 に三百七十五人の生霊を喪い、生存者は辛う  
 じて二十人を数えるといふまれなる大惨事  
 となり、まことに痛恨を禁じ得ないものが  
 あつた。  
 右にかんがみ、大津波の襲來で非命をとげら  
 れた多くの先祖ならびに、海難事故による遭  
 難者の御霊を久しく御慰籍したい微哀を  
 もつて今回部落民一同の意志によりここに  
 供養塔を建立した。

昭和四十七年春彼岸建立  
 昭和五十年六月十五日改修  
 建立賛助者 堀川豊弘文



平成一二年六月十五日建立  
 草洞拜書

供養塔	堀川豊弘	山話人会
工務所	尾崎町内会	水戸 権三郎
協賛者	白浜観音講	中村 隆昌
協力者	田中石材店	前川 三男
	市内小佐野町	佐々木 信二
		佐々木 敬
		佐々木 悦男
		佐々木 正利
		佐々木 栄一



高 139 cm  
 横 59 cm  
 厚 57 cm

カマー 27



大津波犠牲者先祖重位

昭和四十年春彼岸  
 尾崎白浜町内会  
 一同建立

釜石市大町石應禪寺前  
 仲野石材店 刻

カマー 28

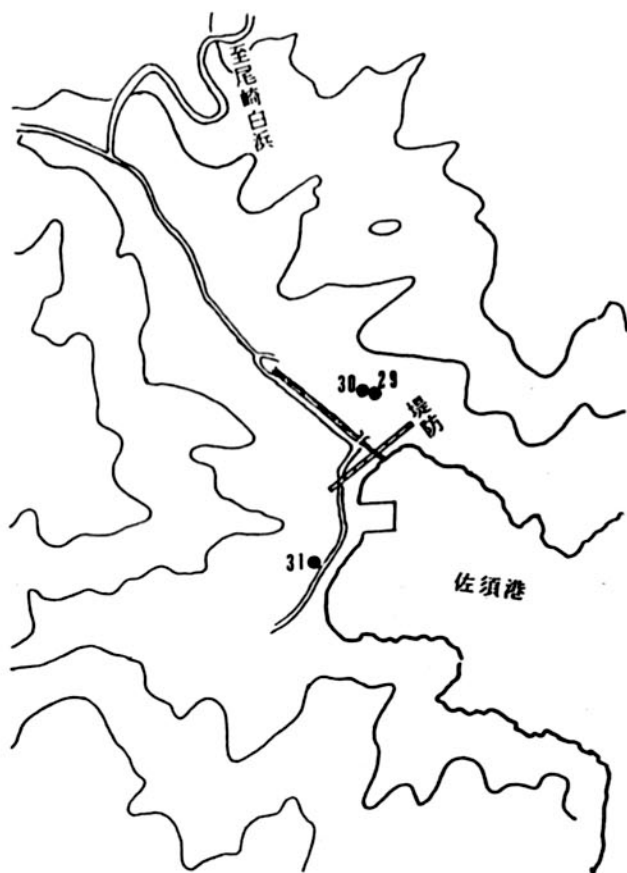
高 156 cm  
 横 73 cm  
 厚 33 cm



嘉永五年六月十日誕辰、八歳ノ折海難ニテ父ヲ喪ウ。廿歳ヲ滿タズニ  
 既証家業ヲ繼ク、明治廿九年六月十五日突如襲來ノ大津浪ニ家屋諸共家  
 閔族全員ヲ失イ一人助カル、爾來千辛万苦ノ末一家復興成ル。  
 依爾後二漁業ト共ニ植林ニ精勵ス。歳九十迄海ニ隨ニ勞ヲ惜シマズ努力  
 兵、昭和四十四年五月五日午前七時五十五分數工年百十七歳ニテ夭折  
 重全ウス。明治期ノ大飢饉ノ際末夕大津浪ノ傷痕憶エザルニ流浪ノ難民ヲ  
 村教ウ。一家言「家ヲ離レテ働ク時不愉快ナル事アルモ歸ル路ハ必ズ笑顔  
 中ニテ數居ヲ跨ギ家人ヲ安心サセル事」

堀川 豊弘 詞  
 鈴木 洋一 書

釜石市平田町佐須  
防潮堤手前左岸  
防潮堤右岸外  
カメラ 29, 30, 31





高 200 cm  
横 68 cm  
厚 49 cm

カマ-29

海 嘯

記 念 碑  
石 應 十 五 世 社 智 賢 書

明治四十五年十七回忌之辰建碑

世 話 人

佐々木 萬之助 佐々木 惣次郎  
佐々木 惣 八 佐々木 留之助  
佐々木 宇之助 猪 又 作兵衛  
佐々木 ■ 藏 陸井内  
佐々木 ■ 藏 石材師  
佐々木 喜十郎 遠山 義淳  
佐々木 勘之助



高 87 cm  
横 75 cm  
厚 33 cm

カマ-30

回 顧 八 明 治 廿 九 年 六 月 十 五 日 午 後 七 時  
佐 半 頃 暴 雨 ノ 最 中 俄 然 大 海 嘯 ア リ 三 陸 沿 岸 之 悲  
慘 ナ ル ヲ 模 ム 中 二 就 テ 釜 石 附 近 ハ 其 ノ 被 害 ノ 最 甚 酷  
烈 ナ ル モ ノ ナ リ 而 シ テ 當 時 須 須 濱 ノ 如 キ ハ 人 畜 眞  
須 須 二 殆 ン ト 全 滅 ス 其 ノ 慘 憫 ノ 光 景 ヤ 筆 紙 ノ 能 ク 盡  
ス 所 二 非 ス 夫 レ 被 害 前 二 於 ケ ル 我 佐 須 濱 ■  
人 家 十 一 戸 住 民 男 女 九 十 七 人 ノ 小 部 落 タ リ キ 而  
濱 シ テ 同 胞 八 十 三 人 悲 鳴 一 聲 ■ 間 ソ ノ 影 ヲ 没 ス 死  
體 ヲ 發 見 ス ル 者 只 二 人 有 毛 辛 ク 免 レ テ 生 存 ス ル  
者 實 二 僅 カ 二 十 人 ア ル ノ ミ 外 二 海 嘯 ノ 猛 如何  
海 ヲ 約 言 セ バ 激 浪 六 丈 二 餘 リ 大 佐 須 ノ 駒 沢 ヲ ■  
小 佐 須 ノ 瀧 沢 ヲ 洗 ヒ 人 家 ノ 如 キ ハ 其 ノ 破 ■ ク モ  
存 セ ス 嗚 呼 是 レ 則 チ 全 滅 セ リ ト 云 フ 所 以 ン ナ リ  
■ 記 シ テ 以 テ 後 ■ 資 ト ス 矣 ■  
人 畜 ■ 没 ■ 男 子 五 十 七 人  
女 子 二 十 七 人 大 拙 智 賢 撰 書  
牛 七 頭

カマ-31

高 152cm  
横 78cm  
厚 38cm



明治二十九年  
海嘯罹災  
申六月十五日  
火災  
岩之墓

古館 武兵衛  
岩間 竹藏

死亡者

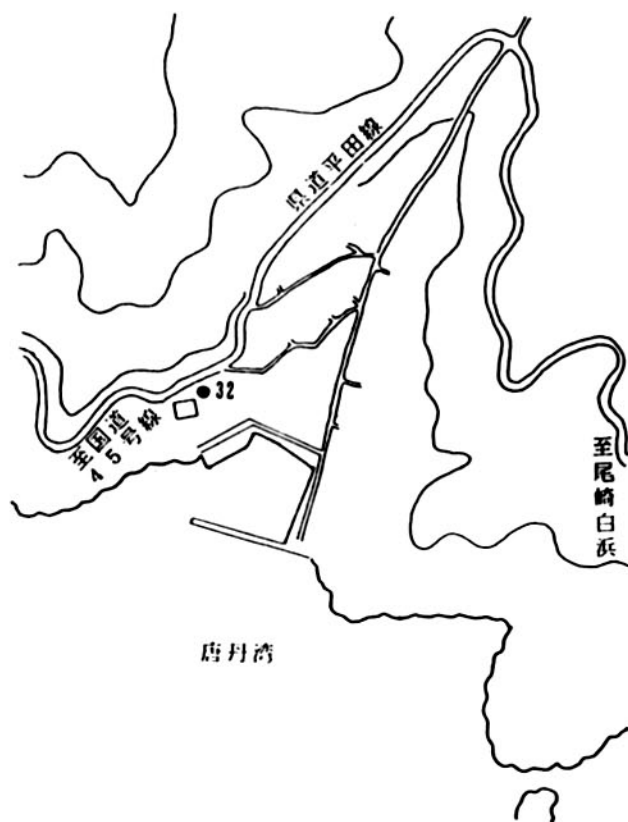
番頭	大謀	岩井	竹松
岩間 勝次郎	西山 三之助	久保	内助
太田 傳四郎	本清次郎	黒沢	松助
全 まつ	岩間 徳太郎	阿部	幸左工門
小林 留之助	高沢 千代吉	佐々木	長次郎
森古 幸吉	前川 由松	全	松之助
竹沢 直吉	全 徳右工門	庄左工門	
中村 吉太郎	全 仁左工門	久保	内助

陸中紫波郡 石工 藤尾  
陸前桃生郡 石工 桜井

大槌街古館武兵衛等以二三  
為之大謀而竹本清次郎為之願勿外數十名  
從事於捕獲際此後書傳而吾不可忘者向也前代未聞大海嘯  
是也實明治廿九年六月十五日也罹此災害其西山三之助外左記  
十有九名也嗚呼烈哉終為海底之靈焉天窮海之斯業他日  
必成益顧而至茲斯榮意慄慄不能措也頃者今堅我子相謀  
請文余之不顧不文幸以塞責云尔  
明治三十年夏六月 仲院建之 華山樹井書

釜石市唐丹町花路辺  
崖壁前山腹民家表

カマ-32





高 210 cm  
横 43 cm  
厚 45 cm

カマー 32

明治廿九年陸曆五月五日

大海津

追 哀 碑

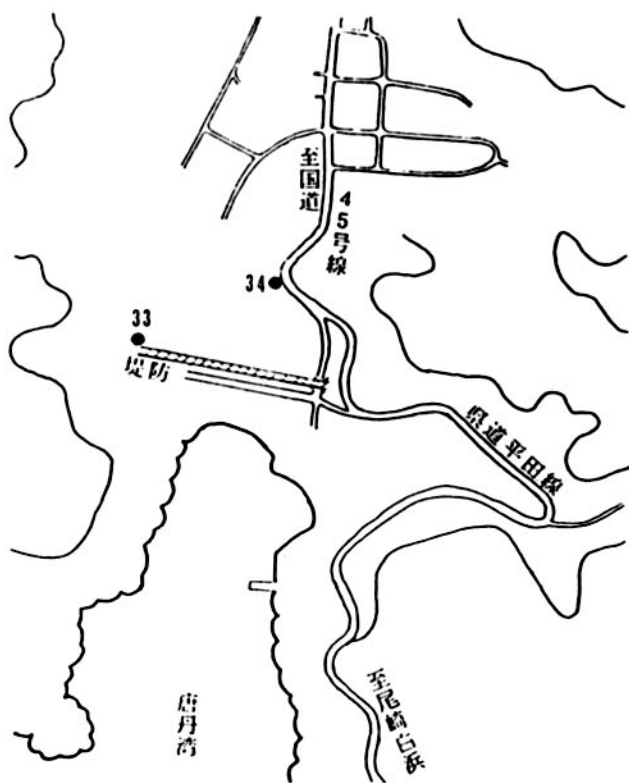
遭難者

青松四十一世鏡親書

明治廿九年陸曆五月五日午後八時頃、然大海嘯起、瞬間ニシテ激浪、此地ヲ襲ヒ、生ヲ失フ者數ヲ知ラズ、死屍累々海濱ニ見ル者目ヲ掩フ、本郷流失戸數三百六十八死者一千七百八十六人、部落全戸數卅八被害卅六死者二百二人、弔祭シハ精魂依ル無ケシ、乃テ卅三回忌、厚ク茲ニ之ヲ弔フ

昭和三年大陸五月五日

釜石市唐丹町本郷  
防潮堤南端  
県道脇  
カメラ33, 34





高 270cm  
横 160cm  
厚 155cm

カマー 33

海神降臨

明治廿九年六月十五日邦俗端午ノ故ヲ以テ  
閩里交賀シ家族互ニ歡娛ス此日朝來陰晴不定  
昔微雨ヲ伴フ暮天地震フコト兩三次午後八

瀧廻轉

時ニ及ビ海上ニ突如股雷ノ如キ響ヲ聞ク須臾  
ニシテ狂瀾洪濤天ヲ衝テ襲ヒ來リ部内八百ノ  
生靈ヲ奪ヒ三百ノ屋舎ヲ壞滅シ去ル為メニ部

日記念

民ノ拮据經營ニ依リテ成レル我本郷ノ街衢忽  
焉トシテ荒陬ト化シ又幽闇ノ裡濁浪ニ漂ヒシ  
同胞ノ叫喚今尚歌々ノ聲アルヲ疑ノ疲憊ノ餘

之碑

身ヲ以テ免レタルモノ僅ニ廿名悽慘亦謂フ可  
カラズ衆庶後昆宜シク協同輶瞻民風ヲ振肅シ  
以テ先靈ヲ弔ヒ追遠ノ誠ヲ致ス可シ昭和三年  
第卅三回忌辰ニ丁リ有志胥謀リテ茲ニ記念ノ  
碑ヲ建テ永ク世ニ傳フ

松洞平嘉撰并篆

營建碑數地寄附

世話人

鈴木 金之丞

佐々木 園蔵  
千葉 伊勢蔵  
三浦 市蔵  
佐久間 蔵

發起者

區長 佐々木 三内

鈴木 庄之助  
千葉 平蔵  
三浦 万五郎  
山崎 玉吉  
佐久間 銀蔵  
上野 衆作  
平野 巳之太郎  
曾根 德蔵  
上野 留蔵  
佐々木 徳右工門  
熊谷 茂助





高 283cm  
横 106cm  
厚 36cm

カマ-34

昭和八年  
津浪和記  
念碑

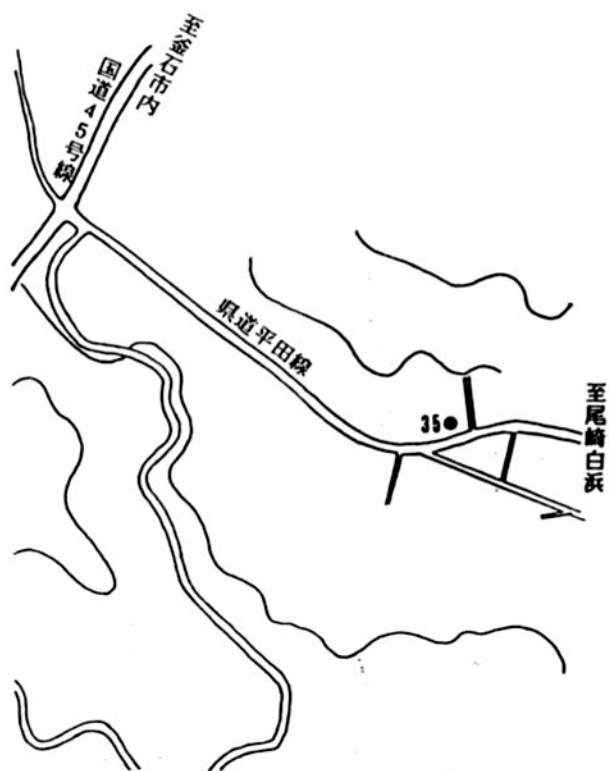
大津浪くたりてめけぬ雄心もて  
いさ追ひ進み参る上らまし

題額并歌銘岩手縣知事  
石黒英彦閣下

維時昭和九年三月三日成  
本碑造成金寄贈  
金三百五十圓 東京朝日新聞社  
金五十圓 柴 琢治  
金五十圓 佐藤 丑藏  
區長代理 千 葉 圓藏 伍長 佐々木 金太郎  
千 葉 源之助 全 佐々木 徳之丞  
佐野 定吉 全 千 葉 平藏  
佐々木 忠六 外部落一同  
柏 喜惣治 石工 佐藤 丑藏  
佐久間 磯治 全 佐々木 留藏  
平 館 工 造  
佐久間 市郎  
昭和九年陽曆三月三日建之

釜石市唐丹町大曾根 県道脇  
(盛厳寺共同墓地前)

カメラ 35





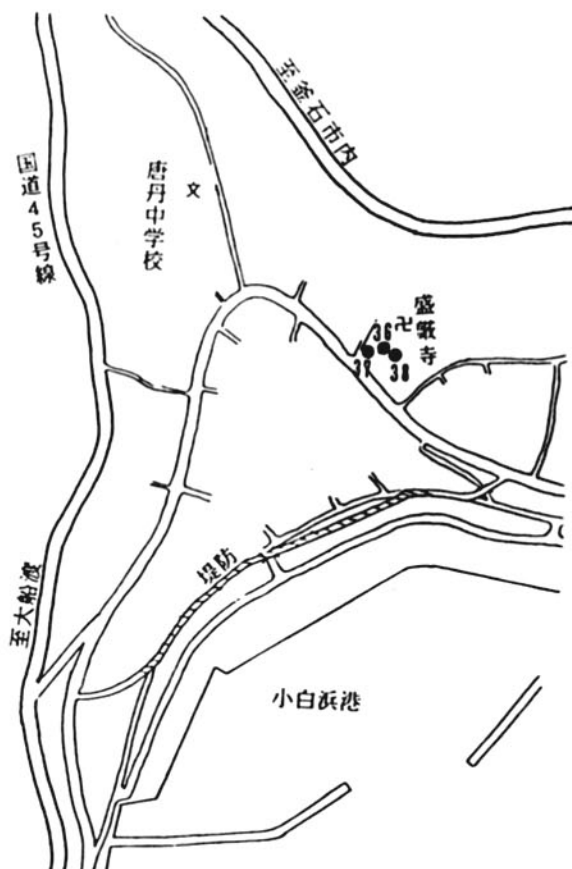
高 172cm  
横 110cm  
厚 33cm

カマー 35

明治廿九年旧五月五日  
海嘯遭難者 納骨之所  
昭和三年村内一同建之

釜石市唐丹町小白浜 盛巖寺

カマ-36, 37, 38





高 430cm  
横 150cm  
厚 150cm

カマ-36

昭和  
和記  
八年  
念碑

大津浪くたりてめけぬ雄心もて  
いさ追ひ進み参る上らまし

題額并歌銘岩手縣知事  
石黒英彦閣下

維時昭和八年三月三日午前二時卅一分突如トシテ激震アリ約廿餘分ヲ経テ海面退潮甚シク體テ遠東方洋上ノ彼方ニ巨煩ノ響アリ次テ漸次第二暴風ニモ粉ヲハシキ霧々タル音響ヲ伴ヒ大津浪襲來ス一瞬ニシテ人實恐怒瀟第二黎明ニ及ブ一望唯荒寒比屋ハ碎ケ樹木ハ確倒サレ死屍ハ累々トシテ目ヲ掩フ儀ニ死ヲ免タルモノ杳然博平トシテ自ラ失ヒ或ハ肢體ヲ傷リ弊フ衣ヲ寒氣ニ晒シテ戰キ慄ヒ親ヲ呼ビ兒ヲ探シヌ大自然ノ暴威水腹ノ一瞬ニテ百五十九ノ生靈ト二百六十三ノ家屋ヲミテ去ル其他ノ被害亦舉テ敵フルニ違アラズ悲憤慟哭血涙ヲ吞ミテ唯拱手アルノミ慘禍兼舌ニ盡スコトヲ得ズ悲報一度ビ天聽ニ達スルヤ畏クモ天皇 皇后 兩陛下ニ於カセラレテハ被害ノ甚大ナル二痛ク御軫念被為在御内帟ヲ開カセラレテ御救恤ノ實ヲ御下賜アラセラレ三月七日大金侍從ヲ御差遣親シク罹災民ヲ慰問セシメラル各宮家ヨリモ種々御手厚キ御沙汰ヲ拜戴セリ億兆ノ■■■■モノカ之ニ如カム我ガ石黒明府ハ災害ノ報ニ接セラレルヤ驟然非常ノ機敏ト英斷ノ下ニ吏僚ヲ督勵シ或ハ陸海軍部當局ノ戮力ヲ得或ハ政府要路ノ協心ヲ得テ應急救護ニ奔命シ衣食ニ醫藥ニ機宜ノ措置ヲ輸サレ或ハ復舊大業ノ方途ヲ確立セラレ復興ノ指針ヲ示サル又全國同胞ハ勿論遠ク海外ヨリ奇モラレタル同情鴻道ハ實ニ無邊ナルモノアリ災後幾旬汀濱ノ邊茶屋ノ烟煙々トシテ續キ感傷ノ情盡クタルナカリシモ救護ノ手篤ク民心漸ク其ノ堵ニ安シシ爾來當局ノ施設ニ呼應シテ萃村一救復舊ノ事業ニ精進ス時二年十一月廿九日第二師團長陸軍中將大勳位東久瀨宮稔彦王殿下ノ御巡視ヲ忝ウシ村民御慈愛ノ深キニ感シ意氣彌々昂ル惟フニ災禍ノ激甚ナリシニ逸早く復舊復興ノ旺盛ナル氣運ニ向ヒタルハ皇恩ノ鴻大ナルト親愛ナル同胞ノ同情ト周到ナル政府並縣其他關係當局ノ施設ト二基クモノニ外ナラス村民ノ永ク牢記シテ須臾モ忘ルベカラザル所ナリ蓋シ自然ノ災禍ハ人爲ノ坑シ難キ所ナリト雖モ之ガ影響被害ヲ減輕シ爾ルハ人カノ敢テ能クスル所ナリ本村ハ近世明治廿九年六月十五日津浪ノ災厄ヲ蒙リ參禍今次ニ勝ル奇蹟ニ生クル者當時克ク災變ニ備フル所アリシカド謂フ所ニ人漸ク緩ミテ賢ムル所ナシ是今次ノ災難ヲ大ナラシメタル所以ノモノト謂フベシ後生克ク憶ヲ之ニ到シ覆轍ノ悔ヲ招カザラムコトヲ期スベシ

茲ニ災變後一周年ヲ迎ヘ復舊事業略完成スルニ際リ災禍ヲ銘記シテ後昆ニ傳以テ鑑戒ト爲ス

皇紀二千五百九十四年  
昭和九年三月三日當一周季 建立

碑表撰文揮毫 若手縣知事 從四位勳三等 石里英彦閣下  
神陰揮毫 元大石 小學教長 菅野松岡殿  
建立費寄附 東京大 阪朝日新聞社 殿

災害當時關係職員錄

若手縣知事	從四位	勳三等	石黑英彦
內務部長	正五位	勳四等	前田慎
警察部長	從五位	勳六等	森田隆
學務部長	從五位	勳六等	本二
知事官房主事	正六位	勳六等	久田啓
農務課長	正六位		井上啓
復興事務局總務課長	正七位		藤田文
庶務課長	正七位		右田文
社會課長	正七位		中野四
醫務課長	從七位		上野節
衛生課長	從五位	勳五等	東海林
土木課長	正五位	勳五等	坂部重
山林課長	從五位	勳五等	山本清
耕地整理課長	正六位	勳六等	坂部重
水産課長	正六位	勳六等	一人瀨
都市計劃地方委員會技師	從六位		渡安幸
縣水産試驗場長	正六位		小安正
土木技師兼道路技師	正六位		佐藤清
道路技師兼土木技師	正七位		佐藤清
道路主事	正七位		村山長
道路技師兼土木技師	正七位	勳六等	奥山英
道路技師兼土木技師	從七位		坂本豐
土木技師兼道路技師	從七位		佐藤公
地方農林主事	從七位		佐藤公
釜石警察署長	勳七等		新田留
臨時釜石土木管區主幹	功七級		西條七
若手縣農林主事補			柴條七
唐丹村助役			松永次
唐丹村助役			松永次



高 209 cm  
横 36 cm  
厚 31 cm

カメラ 37

海嘯溺死霊供養碑  
 明治二十九年  
 大隈五月  
 有 緑 無 緑 △ 口 葬 塔  
 五日遭難



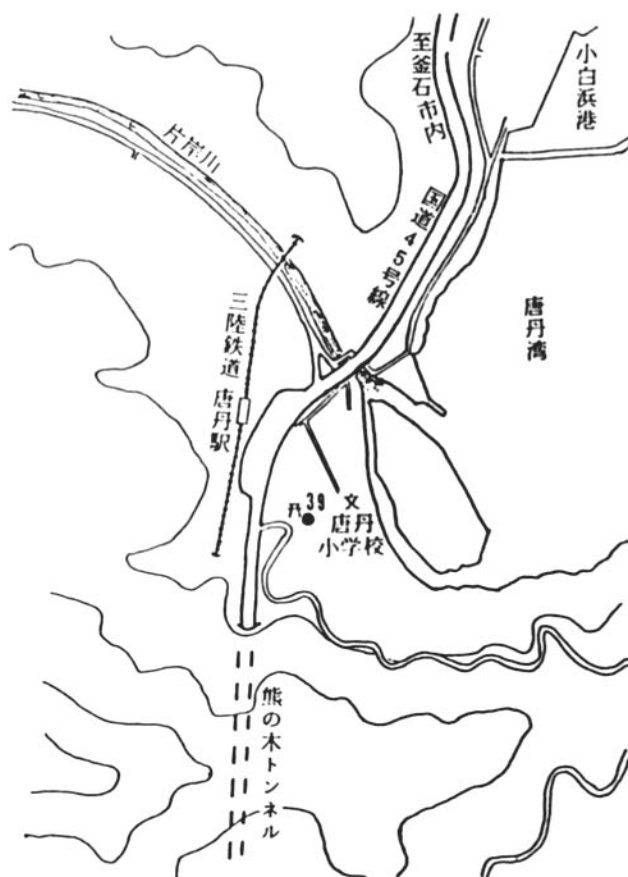
高 305 cm  
横 112 cm  
厚 46 cm

カメラ 38

海 旨  
 明治三十一年  
 大隈五月五日遭難  
 海嘯紀念碑

釜石市唐丹町片岸  
天照御祖神社旧社務所前

カメラ 39







高 110cm  
横 55cm  
厚 16cm

カマー39

海

嘯

發起者河東榮太郎

溺死

碑

片岸ヶ所衆中